



IBM z/OS バージョン 2 リリース 3

ハイライト

- 最新の IBM z14™ (z14) を利用し、最大 170 台の構成可能なプロセッサをサポート
 - データ・セキュリティを強化し、データセット・レベルおよび Coupling Facility ストラクチャーまで暗号化を拡張
 - z/OSMF を用いてエンドツーエンドの z/OS® 管理を簡素化
 - Sysplex インフラストラクチャーの管理を簡素化するツールと新しいクラウド管理機能
 - リアルタイムの SMF Analytics インフラストラクチャー・サポート
 - zFS ファイル・システムを中断することなく運用できるよう強化
 - JES2 回復力の向上
-

データ変革がユビキタスとなったことにより、データ量やトランザクション量が増加し、企業によるアプリケーションの変更が加速化しています。これにより、計算、ストレージ、ネットワークをさらに活用できるよう、より柔軟で拡張可能なソフトウェアによるインフラストラクチャーに対する新たなニーズが出現しています。

これに対する答えとなるのが、オフプレミスとオンプレミスの IT リソースの組み合わせによる、ハイブリッドな IT アーキテクチャへの急速な進化です。この進化により、ビジネス・パフォーマンスを向上、応答時間の目標を達成、機密データやトランザクションを保護、運用上のリスクを最小限に抑えて卓越したカスタマー・エクスペリエンスを実現するために必要な処理能力、規模、可用性、およびスループットに対する課題が明らかになりました。データセンター投資、次世代クラウド・アプリケーションの開発、およびアプリケーション・ライフサイクル管理など、すべてのエリアの IT が影響を受けています。

IBM の z/OS V2.3 オペレーティング・システムは、必要とされている、高度な拡張性とセキュリティ可能性を備えた次世代のインフラストラクチャーを構築するイノベーションを提供します。z/OS V2.3 はパフォーマンス、可用性、拡張、I/O サポート、およびセキュリティを提供し、ビジネス・チャンスに素早く反応できる、オンプレミス/オフプレミスの、またはサービスとしてプロビジョニングされたインフラストラクチャーを提供します。



企業は、変更素早く対応しながら、同時にコスト削減と利益増大を実現する IT インフラストラクチャーを構築するための、スマートで適応性と信頼性が高く、効率的なソリューションを必要としています。

世界レベルのワークロード管理を備えた IBM Z および z/OS V2.3 は、企業が次世代コンピューティングへと移行する際のインフラストラクチャーおよびワークロードのニーズに最適です。z/OS は、お客様がデータアプリケーションとデータの可用性を維持、システム・リソースを保護、サーバー利用率を高い状態に保ち、プログラミング環境を適応可能にしながら、既存アプリケーションの互換性を維持できるように作られています。z/OS は投資保護を最先端のサービス品質と組み合わせることで、ソリューションの寿命を延長し、次世代 IT ソリューションのための信頼できる基盤となります。

z/OS は、企業の最もミッションクリティカルな業務をサポートしながら、同時に世界有数の銀行、金融サービス企業、ヘルスケア企業、政府などのクライアントによって示された厳密なサービス・レベルを満たすよう作られています。z/OS V2.3 ではセキュリティ、簡素化、クラウドという 3 つの重要なエリアに焦点を当て、大量のデータ暗号化を実現するシンプルで透過的かつ有効なアプローチを提供、z/OS エコシステムの管理全体を簡素化して生産性を向上、セルフサービス・プロビジョニングとサービスとしてのソフトウェアの迅速な提供のためのシンプルで透過的かつ有効なアプローチを提供すると同時に、API エコノミーを実現します。

IBM z/OS バージョン 2 リリース 3 — デジタル変革を促す 暗号化への新しいアプローチ

すべての企業の中には主要ビジネス資産としてのデータがあります。これらのデータを紛失したり、セキュリティ侵害を受けると、取り返しの付かない損害が発生する可能性があります。この基幹ビジネスデータは、使用方法を管理し、紛失や不注意による漏洩が発生した場合に講じる措置を義務化する、さまざまな規制要件の対象となる場合があります。

IBM z/OS

Security
Simplification
Cloud



このことは、基幹ビジネス・データの取り扱いや保護方法に関する展望を変化させました。データへの不正アクセスによって発生するリスクや財務上の損失を減らす、最も効果の大きな方法の 1 つは、強力な暗号化を使用することです。基幹ビジネス・データの周りに強固な防御を設けることで、複雑なコンプライアンス義務を果たすことができるようサポートします。この防御の確立はさらに実用的になり、z/OS V2.3 と z14 を併用すれば、企業内に広く暗号化を促すことができます。

z/OS は、z14 モデルの機能拡張をフル活用する新しいポリシーベースの広範な暗号化オプションを提供するよう作られており、基幹ビジネス・データの周囲に不可欠で強靱な防御を構築できるよう作られています。これらの新機能には、次が含まれます。

- 多くの z/OS データ・セット、zFS ファイル・システム、および Coupling Facility リスト・ストラクチャーのデータ保護の強化により、ユーザーはアプリケーション内に暗号化を埋め込むようなコストのかかる変更を行わなくても、データを暗号化することができます。
- 新しい z/OS ポリシー・コントロールでは、広範な暗号化を使用して、ユーザー・データを保護、コンプライアンス・タスクを簡素化できます。
- z/OS Communications Server には、z/OS システムとの間の TCP および Enterprise Extender (EE) トラフィック・パターンのうち、認証済の暗号化条件を満たしているものといないものを z/OS 管理者が判断できる、暗号化対応テクノロジーが含まれています。

ユーザー・エクスペリエンスを簡素化・近代化し、生産性を強化する

クライアントは z/OS を初めて使う専門家や既に z/OS を使用できる専門家で構成される、さまざまなスキルが混在した業務環境に直面しています。z/OS V2.3 はユーザー・エクスペリエンスを簡素化・最新化し、関連情報をいつでも利用でき、簡単にアクセスできるようにします。

- z/OS V2.3 では、z/OSMF は z/OS IPL プロセス中に起動します。これにより、通知サービスなどの z/OSMF サービスで z/OSMF の使用が表示されるようになります。
- 共通的なインストーラーの基本を提供する、z/OSMF のソフトウェア・パッケージングおよびインストール機能を強化することで、インストール改善の基礎を継続的に築きます。

- 新しい z/OSMF プラグインである Sysplex Management は、Sysplexes や z/OS システム、CF および CF ストラクチャー、CF ストラクチャー・コネクタ、結合データ・セットとポリシーの組み合わせ、およびカップリング・リンクなどの Sysplex インフラストラクチャー・リソースの詳細を表示します。



IBM z14 モデル M01-M05 および IBM z14 モデル ZR1

IT コスト・センターから、価値を創出するサービス プロバイダーへの変換

API エコノミーの発展に伴い、IT 操作をコスト・センター・モデルから、収益を生み出すプロフィット・センター・モデルへとシフトさせることが理にかなっています。卓越した垂直方向の拡張性とスピードで知られる z/OS プラットフォームと、最先端のセキュリティーおよび信頼性を組み合わせることで、プライベート・クラウド・サービス配信に理想的な基本機能を提供します。

- z/OSMF は IBM Cloud Provisioning and Management for z/OS のワークフロー拡張機能をサポートしています。
- z/OS V2.3 は大容量 SMF データの高速処理を可能にする、リアルタイム SMF 分析インフラストラクチャー・サポートを提供し、分析アプリケーションやクラウド・アプリケーションで SMF データのリアルタイム分析を行う際に必要な応答時間を実現します。

これらのクラウド機能を搭載した z/OS プラットフォームは、z/OS オペレーティング・システムの特定のインフラストラクチャー・エレメントやコンポーネントだけでなく、さまざまなレベルのさまざまな z/OS ソフトウェア・サブシステム (IBM CICS® Transaction Server for z/OS、IBM IMS™ for z/OS、IBM DB2® for z/OS、IBM MQ® for z/OS、および IBM WebSphere Application Server for z/OS など) で革新を実現できます。

IBM z/OS V2.3 は IBM z14 機能を活用します。

z/OS V2R3 の新しい機能は、引き続き IBM Z® の役割を強化し、信頼できるデジタル経済のためのソリューションをお客様に提供できるよう IBM z14 モデルおよびその役割をサポートします。高可用性、パフォーマンス、セキュリティー、および運用上の柔軟性を最適化するように提供された機能で、組織の成長をサポートし、最も重要なトランザクション環境を保護できます。

z/OS はベース・プロセッサの機能以外にも、次の IBM z14 機能をサポートします。

- 暗号化機能の向上。この機能を活用することで、IBM の膨大なデータ暗号化戦略の実装を開始できます。
- IBM zHyperLink™ Express 機能
- System Assist Processors (SAP) を使用した非同期メモリクリア
- 新しい I/O 接続オプションの追加 (OSA-Express6S、RoCE Express2、FICON Express 16S+ 機能を含む)
- Coupling Facility Level (CFLEVEL) 22 と新しい接続リンク機能
- IBM SDK for z/OS、Java Technology Edition、バージョン 8 (5655-DGG) で使用される Guarded Storage Facility。
- Instruction Execution Protection Facility
- IBM Virtual Flash Memory。

IBM z/OS V2.3 次世代のインフラストラ クチャー

暗号化機能の改善

z14 は、伝送中または保管中のデータを保護する CP Assist for Cryptographic Functions を搭載した IBM Z プロセッサによる暗号化と Crypto Express6S (#0893) で暗号性能を向上させます。CCA 6.0 を使用した Crypto Express6S コプロセッサは、Payment Card Industry (PCI) Pin Transaction Security (PTS) Hardware Security Module (HSM) 規格に準拠するように設計されています。

PCI PTS HSM と CCA 6.0 に準拠した Crypto Express6S は、PCI PTS HSM 準拠モードと一般の使い方の両方でいくつかの新機能を導入しています。

1. 既存のマスター・キーを使用して、PCI PTS HSM 準拠のタグが付いたトークンを、無停止モードで既存の鍵やサービスとともに使用するための新しい派生鍵階層。
2. TKE 9.0 を使用した、中断なしでの PCI PTS HSM モードへの移行
3. CCA 6.0 を使用する Crypto Express6S コプロセッサでホストされるセキュア監査ログ。
4. セキュア公開鍵インフラストラクチャー、ネイティブ X.509 証明書のサポート (コプロセッサからホストされる新規の PKI による PKCS #10 認証要求の生成を含む)。
5. アクティブなアプリケーション・レポートングを通じた移行計画のサポート。
6. CCA 6.0 の新しいオプションを使用して作成された AES 暗号鍵用に、CPACF エクスポート可能 AES 暗号鍵のサポートが追加されました。

拡張性、可用性、およびパフォーマンス

z14 モデルは、スケールアップとスケールアウトの拡張性がいずれもできるよう設計されています。z/OS V2.3 は引き続き、従来のワークロードの増加や新しいコンピューティング・イニシアチブに対するサービス要件を満たす、最高レベルの拡張性と可用性をサポートします。たとえば、z/OS のサービス品質、ワークロード管理、およびセキュリティーは、プライベート・クラウドやその他のサービスとしてのソリューションへの変革をサポートします。

以下に事例を紹介します。

- z14 プロセッサを搭載した z/OS V2.3 は、サーバーあたり最大 4 テラバイト (TB) の空き RAIM (Redundant Array of Independent Memory: 独立型複数メモリの冗長アレイ) の実メモリーをサポートし、トランザクション応答時間を改善、CPU コストを削減、キャパシティー計画を簡素化、インメモリ・バッファ・プールを拡大できるようサポートし、DB2、WebSphere® MQ、バッチ、SAP およびその他のワークロードのパフォーマンスを改善します。
- zIIP 対象ワークロードの次世代マルチスレッド (SMT)、I/O System Assist Processor (SAP) に対する新しいサポート、IBM z13™ (z13) と比べて 2 倍の AES パフォーマンス、真正乱数生成機能、SHA3 サポート、および RSA/ECC アクセラレーションにより拡張できる経済性。
- FICON Express16S+ は I/O レートを大きく向上しており、単一のストリーム・レイテンシーを減らし、予測不可能な大量の分析やモバイル・ワークロードによる膨大なアプリケーションやトランザクションの急増を吸収できるよう作られています。
- z/OS Platform for Apache Spark を最適化しました。
- Java パフォーマンス: Java ガベージ・コレクションの際の、プログラム一時停止を減らすようサポートします。
- IBM Virtual Flash Memory は、Flash Express 機能に代わり、アプリケーションの可用性を向上させ、ページング・ワークロードの急増に対応するため、最大 6.0 TB の仮想フラッシュ・メモリーを 1.5 TB の単位で提供します。
- IBM zHyperLink Express はダイレクト接続短距離リンク (zHyperLink) を使用して、z14 と FICON® ストレージ・システムの間で低遅延接続を提供します。zHyperLink Express は既存の FICON SAN インフラストラクチャーと連携して、IBM Z ストレージのための次世代の I/O を提供します。

優れたワークロードの管理とリソース最適化

z/OS および IBM Z はインテリジェントにワークロードを管理できる機能によって、システム・リソースを迅速にアプリケーションへと割り当て、ポリシーに従って追加サーバー容量を効率的かつ動的にプロビジョニングしてワークロードの急増を処理し、ビジネスのニーズにより適切に対応することができます。

IBM z/OS Workload Manager (WLM) を使用すれば、さまざまな混合ワークロードを処理して、ビジネス応答時間の目標を達成することができます。WLM は Parallel Sysplex® 全体でサービスを管理して単一制御点を提供でき、個別のイメージ管理の必要性をなくすよう作られています。

- z/OS V2.3 は、ワークロード管理応答時間を短縮するという目標を実現できます。WLM は、平均およびパーセンタイル応答時間目標の定義を 1 ミリ秒へ減らせるよう作られています。z/OSMF RMF はこれらの短い応答時間を報告するよう作られています。
- z/OS V2.3 ではグループを機能させる方法としてテナント・リソース・グループ (TRG) をサポートするよう Workload Manager (WLM) が強化され、グループを独自に測定および設定できる機能が搭載されています。たとえば、お客様はアドレス・スペースのグループを分類し、そのグループに関する CPU 消費量を、WLM サービス定義内で指定された上限へ制限 (「設定」) するよう WLM に指示することができます。同様に、設定を削除し、そのワークロードの CPU 消費量の制限を中止することができます。
- WLM は各テナント・リソース・グループの CPU 消費量を記録するよう作られており、指定されたワークロードの Resource Measurement Facility (RMF™) レポートを強化します。
- z/OS Workload Management が提供する制御では、一般的な汎用プロセッサでは実行されない、このような特別プロセッサ対象作業が一般的な汎用プロセッサでは実行されないう、サービス・クラスを定義できます。さらに、WLM リソース・グループが強化され、関連付けられたサービス・クラスで使用できる実際のストレージ容量を制限するようになりました。この機能を利用するワークロード (Apache Spark ワークロードなど) では特に、この機能は特定の Spark クラスターに送信されるすべてのアプリケーションまたはジョブが指定した実メモリの制限を超えないよう指定し、zIIP 容量を超えた場合に標準プロセッサからのサポートを受け取らないよう指定できます。

リスク軽減に役立つセキュリティと回復力

サプライ・チェーンがさらに複雑化し、モバイル・デバイスが蔓延している現在の状況において、データ・セキュリティはかつてないほど厳しく吟味されています。クラウドおよびモバイル・コンピューティング・モデルにより、データ保護や回復力のニーズが高まっています。z/OS および IBM Z は、セキュリティで保護された認証、監査、セキュリティで保護されたアクセス、暗号化、セキュリティで保護されたネットワークなどの使用を通じて、データやトランザクションを保護および管理する理想的なハブです。

z/OS V2.3 は z/OS データ・セット、zFS ファイル・システム、Coupling Facility ストラクチャーのためにポリシー対応の拡張データ保護を提供し、データ暗号化機能を提供してミッションクリティカルなデータの保護を強化します。これらの機能は、コンプライアンスおよび監査要件を満たすよう作られています。

z/OS Communications Server には、z/OS システムとの間の TCP および Enterprise Extender (EE) トラフィック・パターンのうち、認証済の暗号化条件を満たしているものといないものを z/OS 管理者が判断できる、z/OS Encryption Readiness Technology (zERT) が含まれています。

z/OS V2.3 において、RACF® は新しい ZMF CLOUD クラスを導入します。このクラスは z/OS クラウド関連リソースの定義に使用されており、z/OS Cloud セキュリティ管理者は z/OS クラウド関連リソースへのアクセスを制御できます。

簡素化 - z/OS を管理しやすくする

専門的スキルの活用がさらに最適に行えるよう、管理や操作がしやすいソリューションが必要です。この課題をクリアできるよう、z/OS では引き続き、診断や問題の決定、ネットワークやセキュリティの管理、全体的な構成や操作を簡素化しています。これらの改善点は、簡素化されたシステム管理や生産性の向上、わかりやすく使いやすい機能を使用したより直感的な管理を通じて、価値創出までの期間を短縮するのに役立ちます。

z/OS SDSF 機能は長年にわたり、システム・ワークロードに関する情報を表示してきました。z/OS V2.3 では、3270 UI に合わせた新機能が搭載され、SDSF ブラウザーベースの UI が新しくなりました。SDSF は、SDSF の開始方法や、SDSF の一部として提供されるさまざまな機能の使用方法について、エンド・ユーザーに詳細な情報を提供するように作られた、新しいユーザー・ガイドの提供を開始しました。z/OS 製品ドキュメントとともに、新しいユーザー・ガイドをご利用いただけるようになりました。これにより、ユーザー情報の検索やブックマークが容易になり、SDSF でのユーザー・エクスペリエンスが向上します。z/OS V2.3 で提供される SDSF は確保されたスペース、スプールやコントロール・ブロックの消費などを表示し、特に回復力の分野で JES2 の新しい機能強化をサポートします。

Web ブラウザーベースの z/OS 管理インターフェースである z/OSMF は、z/OS の必須コンポーネントとなり、すべての Sysplex で 1 つ以上のシステムにインストール・設定されるようになりました。z/OSMF は z/OS ソフトウェアの毎日の構成および管理を簡素化し、メインフレームをより管理しやすくするよう作られています。これにより、スキルを伸ばして生産性を最大化し、繰り返し可能な、より標準化された管理アプローチを作り出すことができます。z/OSMF オートメーションは、ワークフロー、REST サービス、グラフィカル・インターフェース、z/OS 以外のソフトウェアの管理のサポートなどの最新の機能を使用して学習曲線を緩やかにし、スキルを伸ばせるよう作られています。アクティブ・ユーザー・アシスタンスが、タスクの手順をサポートし、操作を簡単にします。

新しい z/OSMF の機能強化:

z/OSMF が強化され、次が含まれるようになりました。

- 新しい z/OSMF プラグインである Sysplex Management は、Parallel Sysplexes や z/OS システム、CF および CF ストラクチャー、CF ストラクチャー・コネクタ、結合データ・セットとポリシーの組み合わせ、およびカップリング・リンクなどの Sysplex インフラストラクチャー・リソースの詳細を表示します。
- z/OS V2.3 の z/OSMF WEBISPF プラグインが強化され、Sysplex 内でのシングルサインオンを許可するようになりました。これにより、システム間を移動してもログオンとログオフを繰り返す必要がなくなります。
- z/OS V2.3 z/OSMF には、「オペレーター・コンソール」と呼ばれる新機能が含まれます。これらの機能は z/OS オペレーター・コンソールの視覚化を改善 (Sysplex での複数のシステムのサポートなど) します。
- z/OS V2.3 では、既存の XML ファイルを直接編集する代わりに、UI でワークフローを編集できる新しいワークフロー・エディターを z/OSMF に追加しました。
- z/OS V2.3 z/OSMF Software Management は、ポータブル形式のパッケージを公開しているすべてのソフトウェア・ベンダーからのダウンロードに、共通のプロセスを使用できるよう作られています。これにより、ユーザーは一般的なツールを使用し、同じユーザー・インターフェースで参加ベンダーのパッケージをダウンロードすることができます。

z/OS Management Facility の詳細については、ibm.com/systems/z/os/zos/zosmf/ をご覧ください。

アプリケーション開発を可能にする

z/OS は、アプリケーションの開発および既存の投資との統合を実現するためのサポートを提供します。z/OS では、確立されたサービス・レベルを維持しながら、同じハードウェア上で複数のプログラミング環境を同時にサポートすることができます。現在の z/OS V2.3 アプリケーションを拡張・最新化し、z14 の機能を活用して資産の交換や書き換えに関する費用を発生させずに価値を提供できます。

z/OSMF は IBM Cloud Provisioning and Management for z/OS のワークフロー拡張機能をサポートしています。これには、ジョブ名の作成、ジョブ・カード属性、REST ワークフロー手順、Workflow Editor に対する改善が含まれます。

IBM SDK for Java 8 SR5 は次の機能強化を提供します。

- Pauseless Garbage Collection (GC) は z14 の Guarded Storage Facility を利用して、GC stop-the-world 一時停止時間を減らし、大きなヒープや応答時間が重要なアプリケーションに対し、より一貫した応答時間を提供します。この新しいモードは、Xgc:concurrentScavenge を通じて有効化された、既存の GenCon GC ポリシーに対する拡張機能です。この機能には z14 プロセッサが必要です。
- IBM Java for z/OS は IBM SDK for z/OS, Java Technology Edition、バージョン 8.0.5 (IBM Java for z/OS V8 SR5) ではデフォルトで有効化されており、RMODE64 を利用してバーの上に JIT コード・キャッシュを配置します。
- パフォーマンスと機能：
 - Liberty および分析ワークロードでの一般的なスループット、フットプリント、CPU 使用量/起動の向上

z/OS V2.3 XL C/C++ は次のエリアで機能強化を提供します。

- 使いやすさ：
 - Metal C は、環境上で動作する新しい関数ポインターを作成し、同様のコーディング・パターンや自動環境ベースの呼び出しを許可する関数を呼び出します。
 - 構造リスト用に 16 進数のオフセットが提供されます。これにより、レイアウト情報の比較と分析が向上します。
 - DSECT ユーティリティは元のアセンブラー DSECT に厳密に近づけた C 構造/ユニオンを作成し、元の DSECT と同じサイズとメンバーのオフセットを提供します。
 - 新しい z14 の命令の利用: たとえば、新しい ARCH(12) および TUNE(12) のサポートは、z14 プロセッサの新命令 (vector 浮動型に対するサポートを含む) を利用します。
- パフォーマンス: z/OS V2.3 がサポートするハードウェア要件に合わせ、アーキテクチャのデフォルトが ARCH(10) (zEC12) に変更されました。
- セキュリティー: オーバーフローしやすいバッファを保護し、上書きを検出する機能からの戻りを停止するスタック保護
- デバッグ：
 - Metal C デバッグ・データはこれらのデータを同期し、アセンブラーやオブジェクトとデバッグ・データをリンクさせる情報を提供します。
 - Saved Option String Information (SOSINFO) ユーティリティは、問題の診断をサポートするよう、PPA ブロックでエンコードされたオプションを発行し、問題の診断に役立ちます。
 - ランタイムでロードされないエリアの実行可能ファイルに、オブジェクト・ファイル形式で DWARF デバッグ情報が追加されました。これにより同じファイル内でデバッグ・コードと実行可能コードの両方にアクセスすることができます。dbx ユーティリティはこの機能をサポートします。

z/OS には、z/OS エlementとして、IBM WebSphere Liberty for z/OS アプリケーション・サーバーのコピーが含まれるようになりました。認定製品やその他の z/OS Elementの使用に対してライセンスが付与されるため、保守が必要な WebSphere Liberty インスタンスの数を減らします。IBM は、この新しい WebSphere Liberty Elementを、それを使用するその他の z/OS Elementとともにサポートします。ただし、この WebSphere Liberty for z/OS のコピーは、お客様にもご利用いただけます。z/OS ライセンス・プログラム仕様書に記載されているとおり、これらの使用はサポートされておらず、z/OS での非生産的な使用に制限されます。

オープン標準のサポート

z/OS は多数のソフトウェア開発言語をサポートしています。Language Environment® は、次の IBM コンパイラ製品で生成されたアプリケーションのための前提条件ランタイム環境です。

- XL C/C++
- Enterprise COBOL for z/OS
- Enterprise PL/I for z/OS
- IBM REXX™
- Java

最小限の実装、フル実装または部分実装でサポートされる業界標準およびプロトコルの一部:

- Java
- XML (z/OS XML システム・サービス)
- Unicode
- METAL C facility
- C 言語規格
- Eclipse
- Web サービス規格
- SOAP
- IPv4, IPv6
- JIS
 - JIS X 0201, JIS X 0208, および JIS X 0212
- CIM
- EMVCo
- FIPS
- PKCS #11 #12
- PCI DSS
- ISO の一般条件
- IETF 規格
- ANSI 規格
- OASIS
- NIST
- REST
- その他

次世代のインフラストラクチャーを構築するための革新を提供

現在の経済では、企業は膨大な情報を迅速に消費、操作、提供し、クラウド・サービスの機能を活用しながらビジネス洞察を引き出す必要があります。情報は世界中で安全に管理、処理、提供する必要があります。このように、従来の処理ニーズからの根本的な変化により、ミッションクリティカルな業務のサービス・レベルに影響を与えることなく、新しいワークロードをサポートできる、応答性と信頼性の高いプラットフォームが求められます。z/OS V2.3 で提供される強化機能は、この新しい IT 環境のためにビジネスをスムーズに移行させるためのインフラストラクチャーを提供します。

互換性

z/OS は、同じシステム上、またはマルチシステム Parallel Sysplex 内で複数の z/OS リリースを同時に実行できる互換性と柔軟性を提供します。たとえば、次の共存機能を参照してください。

- z/OS V2.1 は、z/OS V1.13、z/OS V2.1、z/OS V2.2 および z/OS V2.3 と共存します¹
- z/OS V2.2 は、z/OS V1.13、z/OS V2.1、z/OS V2.2 および z/OS V2.3 と共存します
- z/OS V2.3 は、z/OS V2.1、z/OS V2.2 および z/OS V2.3 と共存します

移行

マイグレーション・チェックと z/OS Migration マニュアルは、移行を簡素化するのに役立ちます。マイグレーション・チェックは、z/OS の移行操作がお使いのシステムに該当するか、または移行操作が正常に完了したかどうかを判断するのに役立ちます。これらのチェックは移行操作を実行するのではなく、z/OS Migration マニュアルの情報に沿って使用し、独自の移行プラン作成をサポートするよう作られています。

z/OS の移行についての詳細は、ibm.com/systems/z/os/zos/installation/ をご覧ください。

サポート

z/OS V2.3 は次の IBM Z ファミリー・サーバー上で実行します。

- IBM z14 モデル M01-M05 およびモデル ZR1
- IBM z13
- IBM z13s™ (z13s)
- IBM zEnterprise® EC12 (zEC12)
- IBM zEnterprise BC12 (zBC12)

z/OS V2.3 ハードウェア要件の詳細な説明については、IBM Knowledge Center で「z/OS インストール計画 (GA32-0890)」を参照してください。

一般的な製品使用可能性

z/OS バージョン 2 リリース 3 は 2017 年 9 月 29 日にリリース予定です。その他のオペレーティング・システムの提供開始スケジュールについては、ibm.com/systems/z/os/zos/support/zos_eos_dates.html をご覧ください。

z/OS V2.3 には、バッチ処理の効率性と機能を強化し、堅牢かつ高性能な I/O インフラストラクチャー (ファイル・システムやアクセス方法の強化など) を提供することで、トランザクション・データや運用データの価値を保つことができる多くの機能が搭載されています。

z/OS V2.3 のコンポーネントの詳細については、以下を参照してください。

[z/OS Knowledge Center](#)

また、”z/OS V2.3

System-Level, Planning for Installation, Learning about z/OS (z/OS V2.3 システムレベル、インストール計画、z/OS について) の、ベース・エレメントとオプション機能のリストも参照してください。

IBM をお勧めする理由

ビジネス・プロセス、テクノロジー、製品、およびサービスを吟味しながらビジネスの変換を進めるお客様にとって、IBM は信頼できるパートナーであり続けます。IBM では、お客様の既存のミッション・クリティカルなワークロードに必要なサービス品質を保持しながら、クラウド、分析、およびモバイルのワークロードをサポートするため、お客様の変革をお手伝いできます。

- IBM は実績のあるテクノロジー・ソリューションを使用し、収益の増加と費用削減を促すお手伝いをします。
- 弊社の専門エンジニアがお客様のビジネスニーズに最適な z/OS ソリューションの構築、設計、実装をお手伝いします。
- IBM には、デジタル経済のチャンスや課題に合わせてお客様のテクノロジー環境を最適化できるようサポートする、システム、ソフトウェア、配信、および財務に関するビジネスや専門知識があります。



© Copyright IBM Corporation 2018

IBM Systems
Route 100
Somers, NY 10589

Produced in the United States
April 2018

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、IBM Z、CICS、DB2、FICON、IMS、Language Environment、MQ、Parallel Sysplex、RACF、REXX、RMF、WebSphere、z13、z13s、z14、zEnterprise、zHyperLink、z/OS、および z Systems は、米国、その他の国、またはその両方における International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。本文書の初出時に、上記およびその他のIBM商標に、この情報の最初に現れる個所で適切な表示 (® または ™) が付いている場合、この情報が公開された時点でIBMが所有する登録商標または慣習法上の商標であることを示しています。このような商標は、他の国で登録された、あるいはコモンロー商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、ウェブサイト「Copyright and trademark information (著作権および商標情報)」ibm.com/legal/copytrade.shtml でご覧いただけます。

Java およびすべての Java 関連の商標とロゴは、Oracle やその関連会社の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標です。

UNIX は The Open の米国およびその他の国における登録商標。

その他の商標および登録商標は、それぞれ各社に帰属します。

本資料は最初の発行日の時点の内容であり、予告なしに変更される場合があります。

本資料の情報は「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性に対する保証、および非侵害の保証または条件を含め、いかなる明示的または黙示的な保証も行いません。日本 IBM 製品は日本 IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

¹ 注: z/OS V2.2 より後のオペレーティング・システムは、今後の意向のみを表します。IBM の計画、指示、意図に関する全てのコメントは、変更あるいは取り消される場合があります。



Please Recycle